

カンキツ「不知火」のブランド化に寄与した栽培法及び長期貯蔵技術の確立

榑 英雄 氏（60歳）

熊本県北広域本部 鹿本地域振興局 農林部 農業普及・振興課
主幹（前 熊本県農業研究センター果樹研究所長）



1 業績の概要

背景

熊本県では、昭和20年代に生産の始まった甘夏が、長く中晩柑の主要品種であったが、昭和50年代後半から消費減少や競合品目の出現による価格低迷が続いた。また、同時期にオレンジ輸入自由化の動きが顕著になってきており、この影響を最小限に食い止めるため「ポスト甘夏」となる有望なカンキツ品種の探索・ブランド化が急務となっていた。

研究内容・成果

平成初期から熊本県で産地化を進めたカンキツ「不知火（しらぬひ）」のブランド化に当たっての栽培面、販売面の課題解決に取り組んだ。

高接ぎによる樹勢低下、高酸果実などの栽培面での問題に対応するため、熊本県が開発した樹勢が強く減酸の早い「肥の豊（ひのゆたか）（※）」の露地栽培での高品質果実安定生産技術、カラタチ台に比べ樹がコンパクトで高糖度果実生産が可能となるヒリュウ台「肥の豊」の加温栽培技術を確立した。

（※熊本県開発の「不知火」の珠心胚実生。「不知火」と合わせて不知火類と総称される。）

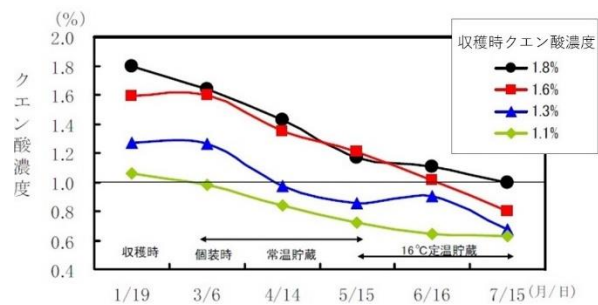
また、全国的な出荷量増加により生じた出荷ピーク時期の価格低下解決のため、「不知火」に適したMA（Modified Atmosphere）包装資材を選定、精度の高いCA（Controlled Atmosphere）状態での長期貯蔵技術を確立した。特に、貯蔵中のクエン酸減少程度を明らかにしたことで、出荷時期の予測が可能になり、販売面の課題であった出荷時期分散に寄与した。



ヒリュウ台「肥の豊」



MA資材で個装された「不知火」



MA個装して貯蔵したクエン酸濃度の異なる「不知火」果実のクエン酸濃度の推移

普及状況

研究成果を基に作成した管理マニュアル等を用いて、農業団体・普及機関が連携して、県内の各産地へ技術の普及を行っており、価格の安定とともに12月ギフト商材やお中元商材としての新たな需要開拓につながっている。その結果、カンキツの栽培面積が減少傾向の中、不知火類の栽培面積（平成30年）は県内で1,131haと中晩柑で最大の面積となっており、生産者の経営の柱となっている。

2 評価のポイント

不知火類は平成9年から全国で品質基準を統一し、基準を満たす高品質の複数の県産の果実が統一の商標「デコポン®」として販売されている、他に例のない果物である。それまでカンキツでは事例がなかった、MA包装資材を使用した個装による長期貯蔵技術の確立は、安定出荷による熊本県内生産者の所得向上に大きく貢献したのみならず、主産県である熊本県の計画出荷により「デコポン®」の全国価格の安定につながったことを高く評価した。

【連絡先】熊本県農業研究センター

（住所：〒861-1113 熊本県合志市栄3801 TEL：096-248-6422）